

農 林 水 産 大 臣 賞

受 賞 者 うすねちいき 薄根地域ふるさと そうせいすいしんきょうぎかい 創生推進協議会
(群 馬 県 沼 田 市)

【「私たちと笑顔つなぐ里山に…」 ここに日本の原風景がある～景観と芸術による美しいむらづくり～】

1 むらづくりの動機と背景

薄根地区の棚田は、冷え固まった溶岩が点在する斜面に水田を築くため、ダイナマイトで砕いた溶岩を先人たちが積み上げて開墾した血と汗の結晶である。

しかし、少子高齢化の進行によって人口減少が進み、空き家や耕作放棄地が目立つようになり、消防団の「役員の受け手がいない」など、コミュニティ機能の低下が進むなどの生活環境の悪化が深刻になっていた。特に、薄根地区内の石墨棚田のある石墨町（西）区では、子供のいる世帯が1世帯（総世帯37世帯）となるなど、消滅集落の危機に瀕している状況であった。

こうした現状に危機感を共有した地元住民の仲間から、「地域住民に元気があるうちに地域の活性化に取り組もう」という声がきっかけとなり、平成29年から地域の活性化策について検討が始まり、棚田の再生とホタルの復活をスローガンに、地域の活性化に取り組むこととなった。

この活動をもとに、「更なる地域活性化のため、様々な団体や個人の力を結集しよう」ということになり、平成30年12月に「薄根地域ふるさと創生推進協議会」を設立し、本格的な活動がスタートした。

2 主な取組内容と成果

- 棚田オーナー制度には、県外からの多数の参加者も含め延べ59組の参加を得ており、また令和5年度からは法人オーナーが誕生するなどオーナーも多様化し、農作業を通して参加者同士や地元住民の交流の場にもなっている。

味噌づくり体験も年々参加者が増え、延べ57組が参加するなど人気のプログラムになっている。参加者からは「家族のために作りたい」、「子どもと一緒に体験してみたい」などの声もあり、地元産の材料にこだわっているところも大きな魅力となっている。

こうした様々な農業体験を通じ地域住民との交流を図り、農村地域の伝統的な食文化の継承につながっている。

- 集落内の水路を整備し、ホタルの生息環境の保全・維持を行うほか、地域の小学校にカワナノ養殖を依頼するなど自然体験学習の機会を提供し、学童教育にも貢献している。

参加した小学生が書いた「カワナノ日記」では、「キャベツよりもレタスの方をよく食べる」など興味を持って取り組んでくれたことが伺え、生態系の保全だけでなく地域の子どもたちに自然に触れる機会や学びの場を提供することができている。

- 石墨棚田の良好な景観を復活させ、ホタル祭り及び棚田イルミネーションを開催することができ、それぞれ市内外から約500名の来訪者があり、地域住民との交流促進が図られている。

カワナノの放流を始めた翌年度からホタルが飛ぶようになり、その数も年々増加している。

棚田イルミネーションは、群馬県内で初めて「つなぐ棚田遺産」に認定されたことを記念して開催され、地元の小学生や高校生、ボランティアなど薄根地区全体で連携しながら準備を進めた。

来場者からは、「沼田で初めての棚田のイルミネーションだ」と感動の声や、地元FM局のFM尾瀬「FM・OZ Eハートウォーミング大賞」を受賞するなど多くの称賛を得ている。

- 棚田の整備には、ジャングルのような耕作放棄地を地元の有志とともに重機を使って整備をするなど相当な苦労があり、棚田の再生はまさに努力の賜物であり、今後も棚田を活用した様々な取組が継続・拡充されることが期待される。

3 活動状況



協議会メンバー



ジャングルのような荒地から始まった棚田の再生



棚田オーナーによる田植え



毎年人気の味噌づくり体験



小学生によるカワニナの放流



大盛況のホタル祭り